

CASBEE[®]新潟 | 評価結果 |



■使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアル、CASBEE-新築(簡易版)2008年版
 ■使用評価ソフト: CASBEE新潟(v.1.2)

1. 建物概要					
建物名称	新津第一中学校				
建設地	秋葉区 新栄町1番地				
用途地域	第一種住居地域				
建物用途	学校,				
竣工年	2012年9月 予定				
敷地面積	34,224.92 m ²				
建築面積	1,312.14 m ²				
延床面積	3,838.32 m ²				
階数	地上4F				
構造	RC造				
評価の段階	実施設計段階評価				
評価の実施日	2011年8月1日				
2. CASBEE新潟の評価結果					
		B+	$BEE = \frac{Q \text{ 建築物の環境品質}}{L \text{ 建築物の環境負荷低減性}} = \frac{49}{37} = 1.3$		
S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★					
3. 新潟市の重点項目の評価					
1. 長寿命化の取組み 誰もがずっと安心して生活するために	平均スコア 3.2		バリアフリー	Q2.1.1.3	3.0
2. 地震への取組み かけがえない人命、財産、思い出を守るために	平均スコア 3.3		維持管理	Q2.1.3	3.5
			更新性	Q2.3.3	3.0
			耐震・免震	Q2.2.1	3.8
3. 大雨への取組み 大雨につよいまちづくりのために	平均スコア 2.0		信頼性	Q2.2.4	2.8
			雨水排水負荷低減	LR3.2.3.1	2.0
4. 自然エネルギー利用の取組み 地球温暖化対策のために	平均スコア 3.5		建物の熱負荷抑制	LR1.1	4.0
			自然エネルギー利用	LR1.2	3.0
5. 資源循環の取組み 持続可能な循環型社会づくりのために	平均スコア 4.3		節水	LR2.1.1	4.0
			リサイクル材の使用	LR2.2.4	4.0
			再利用可能性向上	LR2.2.6	5.0
6. 水と緑を活かす取組み 豊かな田園空間を次世代に引き継ぐために	平均スコア 3.0		生物環境の保全・創出	Q3.1	2.0
			敷地内温熱環境の向上	Q3.3.2	4.0
7. 新潟のまちなみへの取組み 地域の魅力を伝承・創造していくために	平均スコア 4.0		まちなみ・景観への配慮	Q3.2	3.0
			地域性への配慮、快適性の向上	Q3.3.1	5.0
4. 新潟市の重点項目の配慮事項					
1. 床段差の無いことを基本とし、段差が生じる処にはスロープを設ける。 2. 雨水排水は、従前と変らない排水量バランスとする。 3. 空調する室には、ペアガラスを採用し省エネ化を図る。					

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

CASBEE® 新潟

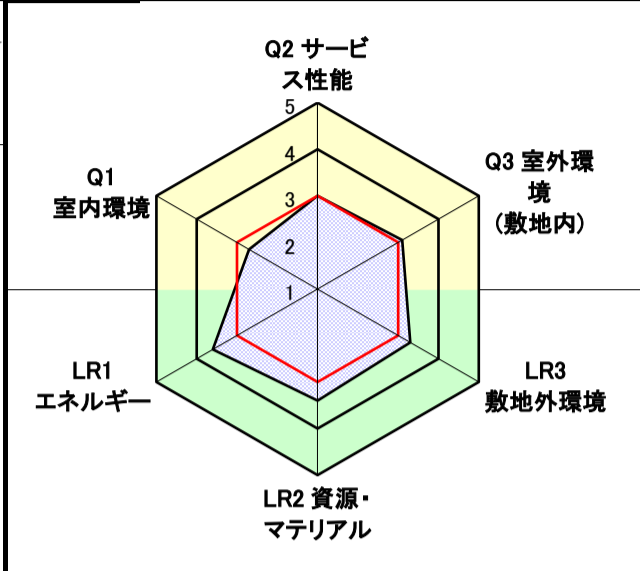
評価結果内訳

■使用評価マニュアル：CASBEE新潟マニュアル、CASBEE-新築（簡易版）2008年版 使用評価ソフト：CASBEE新潟(v.1.2)

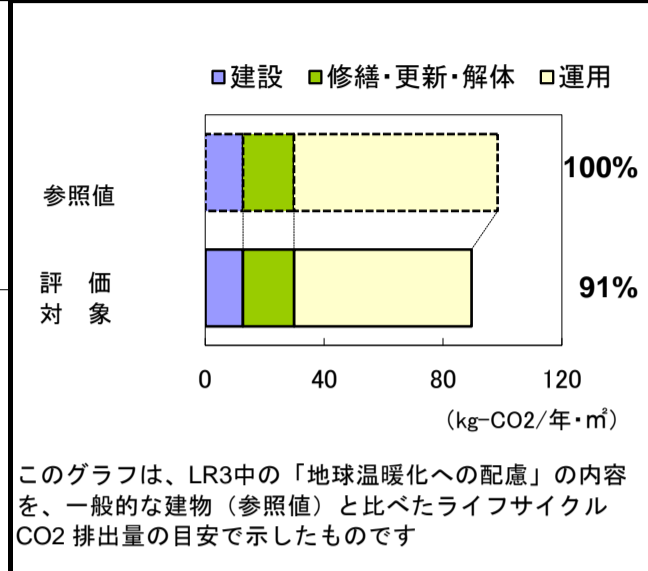
2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)



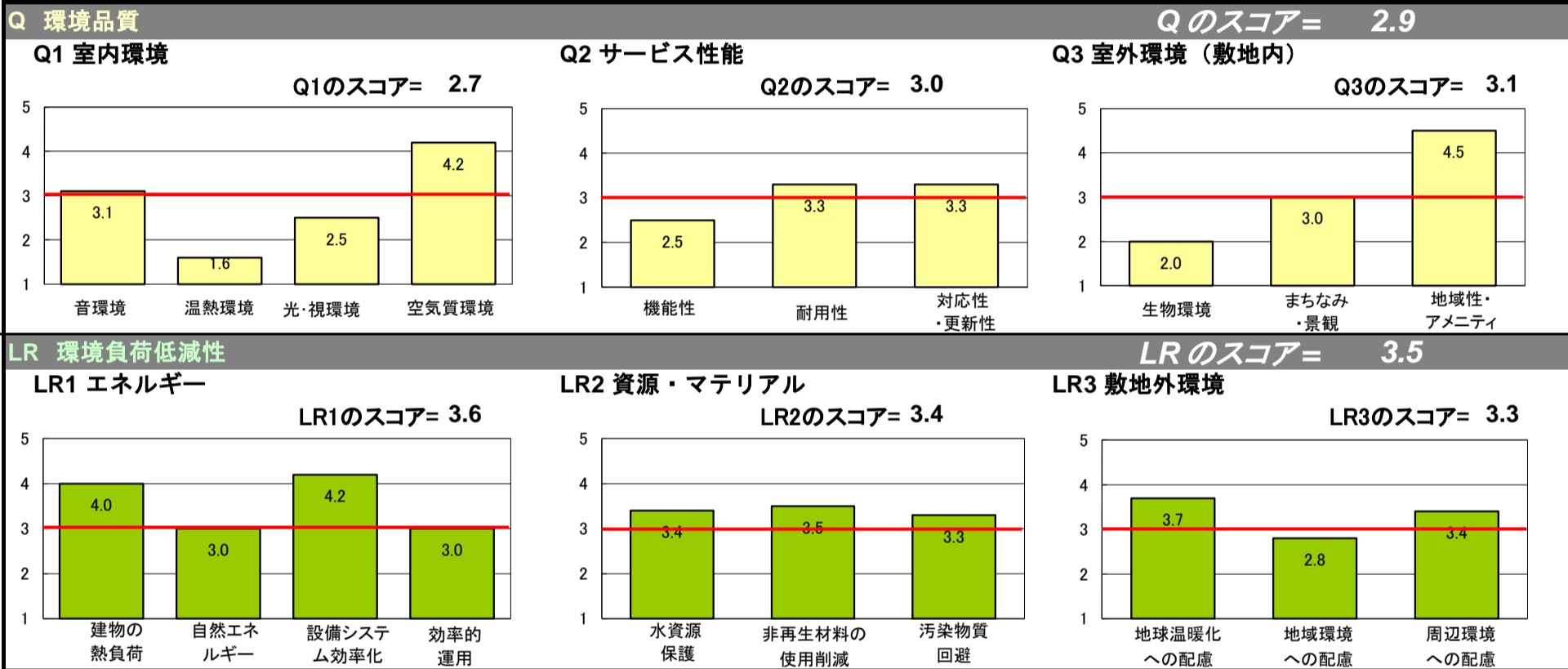
2-2 大項目の評価 (レーダーチャート)



2-3 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)



2-4 中項目の評価 (バーチャート)



2-5 設計上の配慮事項

総合 老朽化が進行し、耐震基準も確保されていないため、安全性確保と最新の教育内容に合わせた施設とするための改築事業である。	その他 家具は、再生しやすいスチール家具を採用する。
Q1 室内環境 室内騒音対策として、天井に吸音タイプの石膏ボードを採用する。また、エアコンを使う部屋については外壁面に断熱材を採用する。その他、特別な仕様は無く、標準的仕様とする。	Q2 サービス性能 避難施設となることから、構造上の重要度係数を1.25とする。またバリアフリー新法の最低限の基準を満たす事とする。
LR1 エネルギー 現段階では特段の配慮はしないが、将来用として太陽光パネルを設置可能とする。	LR2 資源・マテリアル タイルについてリサイクル材を含む製品を使用する。
	LR3 敷地外環境 雨水排水などを含め、既存状態と条件が変わらないようにする。
	Q3 室外環境 (敷地内) 既存の植栽等は、その多くを残す事とする。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される